

阪神・淡路大震災30年・兵庫県こころのケアセンター設立20周年記念事業

こころのケア国際シンポジウム

こころのケアの30年

～自然災害から子どものトラウマまで～



今年度は阪神・淡路大震災から30年が経過する節目です。震災を起点にこころのケアの大切さがクローズアップされ、その知見が日本のみならず海外の被災地でもいかされてきました。

また、こころのケアは自然災害だけでなく、虐待などの事件や事故に遭遇した場合にも求められるようになり、特に子どもにとっては、その後の成長や発達に大きな障害となることがあるため、兵庫県こころのケアセンターにおいてもその対応に取り組んできました。

このシンポジウムでは、自然災害や児童虐待等に起因するトラウマのケアについて、米国の専門家による講演も含めた、最新の研究成果を報告し、当センター20年の活動も振り返りながら、持続可能で発展的なこころのケアのあり方を考える機会にします。たくさんの方の参加をお待ちしています。

日時 2024年 **11月27日** (水) 10:00～16:00 (12:10～13:10は昼休憩)

場所 **神戸国際会議場 301国際会議室**
(神戸市中央区港島中町6-9-1 ポートライナー「市民広場」駅直結)

開催形式 **現地開催及びオンライン開催**

参加費: **無料**

現地定員: **先着180名**

※オンライン参加の定員はございません

参加受付: 2024年10月1日(火)～11月27日(水)

お申込みはこちらから <https://va.apollon.nta.co.jp/ists2024/>

※参加のお申し込みは上記URLまたは二次元コードよりご登録ください。なお定員になり次第、受付は締切とさせていただきます。
※ご不明な点等は下記運営事務局までお問い合わせください。



当日のご案内

- ・12:10～13:10は会場内での飲食可能です(ゴミは各自でお持ち帰りください)。
- ・受付及び視聴方法は下記のとおりです(詳細は上記サイトにてご確認ください)。

現地参加の方

会期当日は予約確認書(二次元バーコード)を受付で提示してください。

オンライン参加の方

会期当日は視聴URLをクリックのうえ、視聴してください(YouTubeによる限定公開)。
※オンライン視聴期間は当日～12/1(日)までとなります。



主催 こころのケア国際シンポジウム実行委員会(兵庫県、公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構)
ひょうご安全の日推進県民会議

後援 JICA関西、朝日新聞神戸総局、読売新聞社、神戸新聞社、サンテレビジョン、NHK神戸放送局、
日本トラウマティック・ストレス学会



開催事務局: 兵庫県こころのケアセンター 〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2

運営事務局: 株式会社日本旅行 九州法人営業部 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-2-1-5F

TEL: 092-451-0606 FAX: 092-451-0550 E-mail: ists2024@nta.co.jp 営業時間: 9時30分～17時30分(土日祝日休業)

■ プログラム：日英同時通訳及び手話通訳あり

9:30~	受付開始
10:00	開会挨拶
10:10	第1部 自然災害とこころのケア - 被災者への心理的支援 基調講演：こころのケアセンター20年の歩み(仮) 【演者】加藤 寛 兵庫県こころのケアセンター長
11:10	■ 第1部テーマに基づく鼎談 【演者】前田 正治 福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座 主任教授 加藤 寛 兵庫県こころのケアセンター長 大澤 智子 兵庫県こころのケアセンター上席研究主幹
12:10	昼食休憩
13:10	第2部 子どもと家族へのトラウマケア 【導入】亀岡 智美 兵庫県こころのケアセンター副センター長
13:30	基調講演1：効果が実証された治療とトラウマインフォームドケア 【演者】メリッサ・ラニオン博士 (Dr. Melissa K. Runyon) ケンタッキー州公認心理師・TF-CBTナショナルトレーナー
14:30	休憩
14:40	基調講演2：日本におけるトラウマインフォームドケアの意義と課題 【演者】野坂 祐子 大阪大学大学院人間科学研究科 教授
15:20	■ 第2部テーマに基づくディスカッション 【コーディネーター】亀岡 智美 兵庫県こころのケアセンター副センター長 【講師】メリッサ・ラニオン博士 (Dr. Melissa K. Runyon) ケンタッキー州公認心理師・TF-CBTナショナルトレーナー 野坂 祐子 大阪大学大学院人間科学研究科 教授
15:50	閉会挨拶
16:00	終了

■ 講師プロフィール



加藤 寛

兵庫県こころのケアセンター長

1958年宮崎県生まれ。神戸大学医学部卒業。精神科医。医学博士。都立墨東病院で精神科救急の実践を行った後、1995年から阪神・淡路大震災の被災者支援機関「こころのケアセンター」に所属し、災害のもたらす様々な心理的影響に関する活動を行う。

2004年4月から「兵庫県こころのケアセンター」に所属し、大災害後におけるこころのケア活動に加え、トラウマやPTSDに関する臨床と研究にも携わる。2012年4月より現職。みやぎ心のケアセンター・ふくしま心のケアセンター顧問。



前田 正治

公立大学法人福島県立医科大学医学部 災害こころの医学講座 主任教授

専攻はPTSDに関する臨床研究、災害精神医学、精神科リハビリテーション学。

ガルーダ航空機墜落事故(1996年)、えひめ丸米原潜沈没事故(2001年)等で被災者の調査・支援の責任者を勤め、2010年から2013年まで日本トラウマティック・ストレス学会の会長を務める。

2013年より現職。現在、福島における原発事故後の被災者の精神保健調査及びそのケアに従事し、政府の犯罪被害者等施策推進会議専門委員や、警察庁および消防庁の惨事ストレス対策アドバイザーを務める。2013年よりふくしま心のケアセンター副所長、2023年より同所長。



メリッサ・ラニオン(Melissa K. Runyon)

ケンタッキー州公認心理師・TF-CBTナショナルトレーナー

TF-CBT(トラウマフォーカスト認知行動療法)、CPC-CBT(親子複合型認知行動療法)の開発者の一人。子どものトラウマに焦点化した治療法であるTF-CBTや、暴力や叱責に頼らない子育ての方法を取り入れたCPC-CBTを普及することにより、身体的虐待リスクのある子どもとその家族の関係を改善し、安心・安全な家族の構築を目指している。

ロウワン大学オステオパシー医学部内「児童虐待研究・教育・サービス研究所(CARES Institute)」や、「米国立精神衛生研究所(NIMH)」等で、治療等の主導的役割を担う。スウェーデン、オーストラリア、米軍等にてCPC-CBTの普及やトレーニングに尽力。



野坂 祐子

大阪大学大学院人間科学研究科 教授

武蔵野大学心理臨床センター、大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンターなどを経て、2013年から現所属。主に児童福祉分野において、性暴力をはじめとする対人暴力の被害と加害に対する対応、家族支援等を行っている。また、社会内で性暴力サバイバーのグループミーティングを運営し、つながりと対話による回復の場づくりに取り組んでいる。現在は、学校や施設といった組織へのトラウマインフォームドケア(TIC)の導入や実装に注力している。

講演では、さまざまな現場の声をもとに、TIC推進に向けた現状と課題を報告する。